

温故知新

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2005.12 Vol.5

平成17年12月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市野口町1794-1
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
<http://www.suac.ac.jp/lib/index.html>

Contents

■表紙

「ミケランジェロ・システィーナ礼拝堂
旧約聖書の世界:天地創造」より

『アダムの創造』――①

■巻頭言

図書館利用の今・昔――②

静岡文化芸術大学 文化政策学部
文化政策学科長
藤田 憲一

■図書館散歩

私の出会った本――③

静岡文化芸術大学 デザイン学部
空間造形学科長
大倉 富美雄

■〈シリーズ〉

図書館・情報センターを使いこなそう!

GeNii(ジーニイ:学術コンテンツポータル)
からWebcatPlus
(ウェブキャットプラス)編――④

■本学教員の著作物――⑥

■図書館豆知識――⑥



「ミケランジェロ・システィーナ礼拝堂旧約聖書の世界:天地創造」より
『アダムの創造』

J・コラルッチ解説、日本テレビ、1991 (723.37/Mi 13)

『あらゆる芸術家の中でミケランジェロは、創造を祝福の身振りによるたんなる言葉ではなく、「動き」として捉えた最初の人物である。ただそれだけで、ここの創造の行為にとって純粹に美しいモチーフが生まれたのである。高々と飛翔しながら、同じマントに包まれた守護霊たちに伴われ、力強い人物が漂っていく。そのスピードはあまりに速く、同じ絵が（太陽と月、そして植物のための）二つの創造行為を一体化できるくらいである。しかし創造の（そしてミケランジェロの創造の）最高の瞬間は、アダムに生命を与える瞬間である。担い担われるあの神々しい諸力の軍勢に取り囲まれながら、地上の全能者が近づき、その人差し指から生命の火花を、既に半ば生命を与えられた最初の人間の人差し指の中へ放流する。芸術のあらゆる領域において、超感覚的なものを完全に透明で表現力に富む感覚的瞬間の中へ天才的に転移した例は存在しない。アダムの姿もまた、最も威厳に満ちた人類の原型である。』

(J・ブルクハルト著 高木昌史編訳『美のチエローネ』青土社、2005年) (723.37/B91)

バチカン宮殿内に建造された教皇専用のシスティナ礼拝堂の天井画。彫刻家・画家・建築家・詩人であるイタリア・ルネサンスの巨匠ミケランジェロ(Michelangelo Buonarroti, 1475-1564)により、旧約聖書《創世記》の9場面と預言者等が雄渾に描かれている(1508-12年)。既存の周壁画(モーセ伝、キリスト伝、歴代教皇像)と統合され、キリスト教全史を物語る空間となった。1535-41年再びミケランジェロにより祭壇座に《最後の審判》が制作された。近年(1981-1994)に修復され、往年の色彩が甦っている。



静岡文化芸術大学 文化政策学部
文化政策学科 学科長
藤田 憲一
Fujita Kenichi

図書館利用の今・昔

西側エントランスから入る本学の図書館は、天井が高く光に満ちている。空調のきいた、快適な閲覧空間。心地のよい椅子やテーブル、そしてコーナーにしつらえられた勉強机など、設備が充実している。コンピュータを使って蔵書を検索することができ、ソフトウェアの在庫も多い。すばらしい環境だ。私の学生時代の図書館と比べ、ずいぶんと違いがある。

学生時代の図書館というと、本郷の総合図書館を思い出す。手あかで黒ずんだ木製の本棚、椅子、閲覧用机。薄暗い空間。鳩が飛んでくる屋上近くの出窓。学部の学生たちは、図書館を勉強の場として使うケースが多かった。司法試験や公務員試験の準備のため、弁当持ちで朝から晩まで、机にかじりつく姿が見られた。ほの暗い閲覧室で勉強する姿は、何だか苦行僧のようであった。

大学院は国立（くにたち）にある大学に移った。活用したのは、そこの総合図書館。また、古巣の本郷の総合図書館と外国法文献センター、そして新聞研究所（現在は社会情報研究所）の図書館も利用した。

カードを繰り、入庫し、ほこりにまみれて文献を探す。必要があれば、コピーをとる。こうした作業を繰り返す日々だった。国立の図書館には、湿度を一定に保つためのミスト発生器があちこちに置かれていた。あれは今でもあるのだろうか。

そのころ、『英米法研究文献目録』という本の編集補助をつとめたことがある。院生仲間や事務助手の人たちと手分けして、英米法に関連する書籍・論文のタイトル等をカード化し、その記載内容が間違いないかどうか、現物と照合する。図書館にもぐり、全点確認する作業が続く。古い本も多く、中にはカビでページがくっついてしまったものもあった。作業は、長丁場となった。調べ済みのカードを、ストープのある部屋で整理したことを印象深く記憶している。分厚い本が出版されたとき、ご褒美に1冊いただいた。

また、法律雑誌『ジュリスト』の増刊（総合特集『現代のマスコミ』）の発行にあたり、マスコミ年表の作成を担当したことがある。その時は新聞研の図書館をよく使った。こちらは、比較的天井が低く、書庫一杯に本や雑誌が詰まっていた。文献を読み進める中で、長い間誤って伝えられていたことを、ひとつ訂正することができた。原典にあたることの大切さを知った。

修士論文の作成のときも、図書館の文献が主な資料となった。アメリカの判例と法律雑誌の論文を探探し、コピーを取る毎日だった。執筆に必要なアメリカの重要資料が手に入らず、困ってしまい、司法修習生の友人に最高裁図書館での蔵書検索を頼んだことがある。そうしたら、目録にはまだ載っていないが、実際には所蔵されていたのを運良く書庫で見つけてくれた。そのコピーが手に入ったときの嬉しさは、今でも鮮明におぼえている。

近ごろは、図書館との関わりがだいぶ変った。必要な本はできるだけ自分で買い入れるようになった。手元に置かないと、間に合わないのである。この先長く勉強を続けられるように、大切な本ほど自費で揃える。

そういうわけで、図書館を利用する回数は減ってきた。もっとも、図書館ならではのサービスを活用することがある。たとえば、雑誌論文のコピー取り寄せでお世話になったことがある。また、「Harvard Law Review」などアメリカの法律雑誌を数タイトル図書館で購入してもらっている。これは、私にとって利用価値が大きい。

アメリカの判例集は、DVDで読むような時代になった。「ジュリスト」も、過去の号を収載したDVDが発売された。円盤ひとつの中に、何トン（？）かの重量のある判例集や法律雑誌と同じ情報が収められている。便利な世の中になったものである。

主要な判決は、インターネット上ですぐ見られるようになった。これもたいへん便利である。しかし、ちょっとありがた迷惑なところもある。下級審判決を対象にした判例評釈を書き上げて送稿した数日後に、最高裁の判決が出たため書き直しが必要になる、というようなことも起こるのである。昔なら、判決が判例集に載るまでは大分時間がかかるので、書き直すとしても余裕をもってすることができただろう。今は出版社が添付ファイルで即日判決文を送ってくれるので、そういう訳にいかない。

これほど便利になると、加湿器が霧を吐く書庫の中で判例集を読んでいた、あのゆったりした時間の流れの中に戻りたい気がする。



静岡文化芸術大学 デザイン学部
空間造形学科 学科長
大倉 富美雄
Okura Fumio

文中に登場した図書

三木清 著
人生論ノート
三木清全集第1巻
121.9/Mi24/1

アンドレ=ジッド 著
狭き門
新潮世界文学「ジッド」
908/Sh61/28-29

カレル・ファン・ウォルフレン 著
**人間を幸福にしない
日本というシステム**
302.1/W84

大倉富美雄 著
デザイン力/デザイン心
2006年1月刊行予定

私の出会った本

デザイナーや建築家は、職業の主要部が設計実務であり、これに膨大な時間を取ります。この実務は本を読むことによって得られることは少なく、日々の活動の蓄積の中に仕事のノウハウが詰まっています。ただでさえ美大育ち系はこの面で最低で、大学時代は言葉の羅列に敵意さえ抱いていたということが実情です。表現するものは言葉によってではない、というわけです。

私もこのために、というよりこれを理由にということもあって、若いころから本を読むのがとても苦手でこの年まで来てしまいました。なにしろ寺山修司の「書を捨てよ。街へ出よう」という「シュプレヒコール」(古い!)の真っ只中にいた世代ですから、ますます本を読まないで来てしまったわけです。サルトルが人気だったりましたが、なぜ人気なのかさえ、さっぱりわかりませんでした。それでも、というよりそれだからこそ言葉を知らない苦しみは卒業後、いやというほど味わいました。そういう苦汁を味わい、そのために訳もわからず書をあさり、突き放されてきた中で、心に引っかかり、読み直し、反芻し、結局取り付かれた本が一冊だけありました。こういうのを座右の書というのでしょうか。

それは三木清の「人生論ノート」(新潮文庫)です。こういうと、識者の中には笑い出す人もいるかもしれません。今ごろ三木清だなんて、というわけです。どういうわけか、この四〇年間あまり、三木のことを語っている人に出会ったことがありませんから、やはり古いのかもしれません。それに確かに、戦時中に捕らえられ獄死したのではなかったかと思います。しかし、絶望の淵にあった私(大袈裟かな)を救ったのが結局、この一冊でした。読めたのは、箇条書き風だったからかも知れません。特に救いだったのは、「虚無」と「虚栄」について明確な指針をあたえてくれたことでした。それに、「花は見られることが救済である」というような言辞がそこそこにあって、三木の立体的で構想力に満ちた文体が、まさしく私のためにあるように思ったものでした。だいぶたってから、たぶん三〇代になっていたと思いますが、読み返して驚愕したのがアンドレ=ジッドの「狭き門」(新潮文庫)です。これも笑われるかもしれません。青春の書と思われているからです。この時は、アリサの日記を最後に持ってくるという文章構成などの必然性などにも気付き、何より、言葉の世界だけで時代と世界を貫通することができる、という事実にも驚嘆しました。なんとも遅い文学の青春への開眼だったわけです。加えて、小林秀雄が「精神と肉体のどちらにも加担せず、あえて宙ぶらりんでいることに踏みとどまろうとする姿を美しいと思う」(私自身の思い込みからの意訳)という意味の解説を寄せていて、これに内心、手を打って「そうだ!これが俺だ」などと小躍りしたものでした。

このように私の人生の書はかなり変わっていると思います。日本の文学がないのです。それであるからこそ、二九にもなってあても無いイタリアなんかに行き、十年もいたという馬鹿が出来たのかもしれません。日本と日本人が嫌いだったのです。そして…月日がたち、日本に帰ってきての体験の中から納得のゆく書が現れました。「人間を幸福にしない日本というシステム」です。

カレル・ファン・ウォルフレンという、オランダ人で日本に長く在住したジャーナリストの書いたこの本は、外国人でなければ書けない本です。イタリアに住むことになってしまった私の経験からすると、日本という國の外からの姿、言い換えれば「國際社會の中の日本」について、一家言もっていても不思議ではないと思っています。その思いをこの書は端的に表してくれています。

実はウォルフレンの本はその前に何冊か読んでいて、全く同感、ということで、この本は半分も読まずにいるのですが、自己解釈も含めるとすべてわかっているという気でいるのです。勝手な理解を簡単にいうと、日本の社会構造とそこからの産業構造は上から押し付けられたもので、国民の内発性によるものではない。税制にしろ、あらゆる法と金権体質は国民を収奪する形に出来ているのです。知られるようになってきましたが、その上で所轄官庁と族議員と利権誘導企業の体質がつくる「鉄のトライアングル」は日本をどんどん駄目にしているということです。

「デザイン」という、どの省庁に属するかもわからない「新興産業」に身を置いていると、ここから派生する実感は切実です。早い話、専門家を前にして恐縮ですが、「日本十進分類表」を見て、「デザイン」がどこに入っているかを的確に説明できますか。日本の未来を握るカギであると信じる分野がこの有様です。日本のことに関しては、私は怒り狂っているのです(これもオーバーかな)。ここまで言ったので、私事でまた恐縮ですが、この思いを今月には出版する本にしました。書名は「デザイン力/デザイン心」(美術出版社)の予定で、先に述べた無茶な体験談から入っていますが、関心あれば読んでください。すみません。いつのまにか自己宣伝になってしましました。

GeNii(ジーニイ:学術コンテンツポータル)からWebcatPlus(ウェブキャットプラス)編

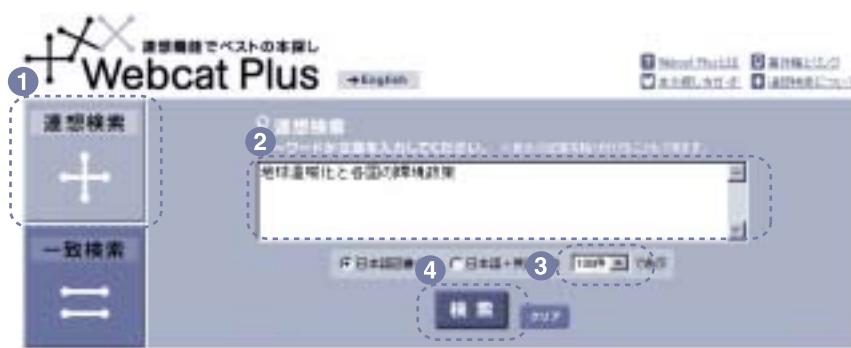
WebcatPlusの特徴…「連想検索」

人間がひとつの言葉から無意識のうちにいくつもの関連する単語を思い浮かべるように、検索キーワードから関連性の高い単語を抽出し、それを含む図書をもれなく探し出す検索方法です。

今回は「連想検索」機能を使った資料の探し方を紹介します。

検索窓に「地球温暖化と各国の環境政策」とテーマを入力し、検索します。

画面 1



- ① 联想検索を選択します。
- ② 検索窓には単語だけでなく、思いついた文章やWEB上の文章をカット&ペーストしたものでも連想検索できます。
- ③ 10件～100件まで選択できます。
- ④ 検索ボタンをクリックします。

検索結果が表示されます。

この検索結果は単に書名に「地球温暖化」や「環境政策」等を含むものだけでなく、Webcatplusが「連想検索」を行い、該当する資料も検索します。また、右側には検索内容に関連が深いと思われるキーワードを抽出し、関連性の高いものから30ワードを表示します。

画面 2

The screenshot shows the search results page for the query '地球温暖化と各国の環境政策'. A dashed box highlights the search bar. Numbered callouts point to: 5 points to the search bar; 6 points to the search results list; 7 points to the '関連ワード' (Associated Words) sidebar. The sidebar lists various terms such as '温暖', '政策', '温暖化', etc. At the bottom of the sidebar, there are buttons for 'マークの説明' (Explanation of marks), '内容説明文つき' (With explanatory text), and '(51) Webcat加盟館の所蔵館数' (Number of member libraries holding the item).

この検索結果では「関連ワード」に“温暖”“政策”などの中に“京都”“対策”なども含まれています。

WebcatPlusでは検索結果と関連ワードを掛け合わせて更に連想検索を行うことができます。

ここで、当初の“地球温暖化”から関連ワードにヒントを得て、“地球温暖化と京都会議”に関する内容に絞り込んでみましょう。

〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう！⑤

テーマに関係が深いと思われるものにチェックを入れて再検索します。

画面 3

- 8 チェックボックスにチェックを入れて [検索] をクリックします。

十（プラス）検索結果が表示されました。かなり絞り込まれたことがわかります。検索結果14番の図書の詳細を見てみましょう。

画面 4

14 京都温暖化防止対策を推進するための技術と指針についての叢書：二酸化炭素排出削減を中心として

9

- 9 書名をクリックすると詳細画面が表示されます。

- 図書情報画面
- 10 図書の内容や目次情報、シリーズ名、著者名などが表示されます。次にこの図書の所蔵館を見てみましょう。
- 11 内容や目次が表示されるため、実際に必要な図書なのか事前にわかります。（表示されない図書もあります。）

次ページに続く

画面 5

京都温暖化防止対策を実現できるのか：CO2削減社会の歩み

著者: 平井伸一 (著) : 2004.3. 23版 : 11月刊経済 : 210

10

11

内容 ■「2004」データーより
京都温暖化防止対策を実現できるのかは、その趣旨には誰もが賛同する。
だが、この趣旨の実現が色々な問題が発生している。
京都温暖化防止対策をして自ら不思議なCO2削減義務を負ういたんだが。
責任による社会停滞を避けるべく、経済学者が奮闘した結果。
貧困が、国富が、市ごとに計算が掛け合って中で、たった一つも環境目標を達成している。
今必要なのは、京都温暖化防止対策を実現して、エネルギーの環境政策を既存の姿へ軽減することである。
温暖化対策は社会風潮の構造改革を求める。

目次 ■「2004」データーより
第1部：持つて、力を發揮したのが、京都温暖化防止対策と日本とのCO2削減社会の歩み：温暖化の原因との関連性と課題の見方
第2部：京都温暖化防止対策が実現する日本社会なぜ、地球温暖化を防ぐのか、生活からの温暖化防止、経済界の温暖化防止、企業のエネルギー削減策
第3部：CO2削減社会の展望は、どうなるか？未来、地球温暖化防止のために何ができるのか？

書誌情報 タイトル：京都温暖化防止対策を実現できるのか：CO2削減社会の歩み
[中444.5・キライ・ワ・シ・ジ・ン・カ・イ・コ・ク・エ] (中444.5・キセイ・シ・カ・イ・コ・ク・エ)
責任表示：平井伸一著

〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう！⑤

所蔵図書館一覧画面

この図書を所蔵している図書館の一覧が文字コードの五十音順に表示されます。
※機関名は省略形で表示。
(例) 静岡文化芸術大学→静岡文芸大
機関名をクリックすると住所・電話番号や利用案内がわかります。

Webcatplusには通常の検索方式である、「一致検索」もあります。
「連想検索」と「一致検索」を併せて使うことでより効果的な蔵書検索を行えます。どしどし活用してください！

画面 6

所蔵図書館一覧

静岡文化芸術大学は実現できるのか! : CO2削減社会のゆくえ
五井圭吾著 -- 平凡社. 2006.3. 239p. -- (王丸桂樹道. 219)

[ISBN453300077]

所蔵図書館	蔵書種別	請求記号
コレクション		H21.58
武藏大		481.7/18
武文書	印	081.161.218
武文書	印	481.78/1/0001
清水高山		
清水高志原		
静岡土芸大		481.88/1/76
静岡工大		481.88/0/07
五高館		481.88/0/07

本学教員の著作物

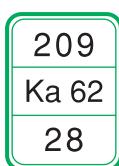
木村 尚三郎(著)学長	「ヨーロッパ思索紀行」 日本放送出版協会、2004.2	293.09/Ki 39
深井 晃子(著)文化政策研究科長	「ファッションの世紀-共振する20世紀のファッションとアート」 平凡社、2005.7	383.1/F 71
馬 成三(共著)国際文化学科教授	「2010年の中国経済:予測シナリオとリスクヘッジ」 蒼蒼社、2005.12	現在購入手続中
鈴木 元子(訳)国際文化学科教授	「エチオピアのユダヤ人-イスラエル大使のソロモン作戦回想録」 明石書店、2005.11	316.88/N28
永井 敦子(訳)国際文化学科講師	「ひとつの町のかたち」 書肆心水、2004.11	現在購入手続中
下楠 昌哉(著)国際文化学科助教授	「妖精のアイルランド-『取替え子』(チェンジリング)の文学史」 平凡社、2005.8	現在購入手続中
坂本 光司(著)文化政策学科教授	「日本経済の縮図県 静岡で頑張る小売店110」 同友館、2005.3	現在購入手続中
伊藤 裕夫(共著)芸術文化学科教授	「アーツ・マネジメント概論(新訂版)」 水曜社、2004.11	706/I 89
扇田 昭彦(著)芸術文化学科教授	「才能の森-現代演劇の創り手たち」 朝日新聞社、2005.11	081/A82/788
小岩 信二(共訳)芸術文化学科講師	「バッハの街-音楽と人間を追い求める長い旅へのガイド」 東京書籍、2005.8	現在購入手続中
河原林 桂一郎(共著)生産造形学科長	「デザインと感性」 海文堂出版、2005.6	501.84/Ka 59/2
長嶋 洋一(著)技術造形学科助教授	「よくわかる組み込みシステムのできるまで」 日刊工業新聞社、2005.5	007.6/N22
大倉 富美雄(著)空間造形学科長	「デザイン力/デザイン心」 美術出版社、2006年1月発売予定	

図書館豆知識①

請求記号について

書架には、同じテーマのものが集まるように請求記号順に並んでいます。OPACで検索し、資料に貼ってある請求記号ラベルを参考に資料を探してみてください。

請求記号の見方

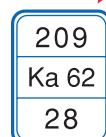


- ◆1段目 分類番号 NDC(日本十進分類表)によって分類
- ◆2段目 著者記号 著者の姓の頭文字のアルファベットと数字を組み合わせ
- ◆3段目 卷冊番号 シリーズ番号、出版年などを記載

OPAC検索画面

番号	編年	所在	請求記号	資料	状況	返却予定期	備考
1	定期購入	209	Ka62/28	000	000	000	000

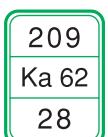
請求ラベル



洋書
(青ラベル)



和書
(赤ラベル)



講義用図書
(緑ラベル)

本の詳細な情報がわからない時はカウンターに相談してください。